

# LIBERA

経法大の今がわかる  
[リベラ]  
KEIHO MAGAZINE

Vol. **94**  
June 2025

[ラグビー部]

## 本格始動!

[テコンドー部 / 硬式野球部]

## 世界への挑戦。

[卓球部]

春季リーグ戦で  
土壇場の粘りを見せ、  
1部の座を死守!

[スポーツクラブ特集]

# 未来へ向から 全力疾走!



未来を生き抜く学び。  
大阪経済法科大学

[ スポーツクラブ特集 ]

今秋の関西大学リーグ戦に  
いよいよ単独チームで参戦!

# ラグビー部 本格始動!

Interview with the Leader

2024年1月に元ラグビー日本代表の吉田明監督が就任し、かつての休止状態から一歩ずつ着実に「再建への道」を進んでいる本学ラグビー部。ここまでの歩みや今後に向けての意気込みについて、キャプテンと監督からそれぞれお話をうかがいました。



## Coach's Voice

**ラグビーはチーム競技。  
だからこそ、個々の  
人間形成が大切になる。**



吉田 明 監督 | 経営学部 准教授

ラグビー部再建にあたり、私が最も力を注いでいるのは部員一人ひとりの人間形成です。ラグビーはチームスポーツで、15人という大人数で戦います。1人が勝手な行動をとれば、それが大きな問題になりチームが決壊しかねません。ですから、まず行動指針やルールを決め、これに基づいて自分たちで主体的に取り組むといったチームづくりを進めてきました。東本キャプテンをはじめリスタート当初の部員たちは、これを十分に理解してくれていて、新入部員たちに規範を示してくれるのが有り難いですね。まだまだ足りないことばかりですが、これから一つずつ、丁寧に積み重ねながら、強化を図っていきたくと考えています。

**4月に22名の新生が入部。  
単独チームとしての  
新たな挑戦がスタート。**

本学ラグビー部は、2023年に数名の部員により復活。その中の一人が、当時2年生で、現在はキャプテンを務める東本さんでした。

「最初の頃の活動は、キャッチボールをする程度でした。でもある日、目の前に現れた吉田監督に『期待しているよ』と握手してもらい、そこから『やるしかない』という気持ちになっていきましたね」。

吉田監督就任後の2024年秋の関西大学ラグビーリーグ戦では、大阪商業大学・流通科学大学・びわこ成蹊スポーツ大学との合同チームで出場し、Cリーグ8位という成績を収めました。そしてこの4月に22名の新入生たちが入部し、現在の部員

数は30名に。今秋開幕のリーグ戦には、いよいよ本学単独でのチームで出場できることになりました。

**勝ち負けが全てじゃない。  
日本一、魅力のある  
ラグビー部をめざして。**

「4年生からのキャプテン就任を機に、監督と話し合せてチームスローガンを考えました。『日本一、魅力あるラグビー部をめざす』と。アスリートである前に、一人ひとりが誠実さや情熱を持ち、周囲から愛される人としての成長が図れるチー



「今はCリーグですが、まずはBリーグめざして頑張ります。花岡キャンパスのグラウンドでの公式戦開催も多いので、ぜひ多くの人に観に来てほしいですね。歴史の1ページ目に立ち会えるのは、今しかありませんよ!」。



ラグビー部 キャプテン

**東本 陽仁さん**  
法学部 法律学科 4年  
大阪高校出身



## FISUワールド

## ユニバーシティゲームズ

## 日本代表としてドイツへ



浅田 将揮さん  
経営学部 経営学科 3年  
漢城高校(韓国) 出身

世界中の学生アスリートが頂点を競うスポーツの祭典。この大会への出場が、大学入学時からの目標だった。

7月16日〜27日にドイツのライプツィヒで開催される「FISUワールドユニバーシティゲームズ(旧ユニバーシアード)」の2025年夏季大会。そのテコンドーキョルギ男子-58kg級の日本代表選手に、本学テコンドー部の浅田将揮さんが選ばれました。

大学に入った時から、ずっと目標としてきた大会です。高校まで韓国に留学し、国際試合の経験も豊富な浅田さんですが、世界中の学生アスリートが頂点を競う大会への想いは格別です。「目標はメダル獲得。いつも自分を支えてくれている監督やコーチ、応援してくださっている方々のために、頑張りたいと思います!」。

# 世界への挑戦。

スポーツに励み、成長を重ねるその過程で「世界に挑む」というビッグチャンスをつかんだ有望な学生アスリート2名を紹介します。

台湾トップレベルの大学生選手との対戦や交流の経験を、実業団でのプレーや指導者をめざす未来に繋げていく。

本学硬式野球部が所属する阪神大学野球連盟の創立70周年記念事業として、7月3日〜7日にリーグ選抜チーム(30選手)が台湾遠征を行い、現地大学生チームと親善試合を開催します。そのメンバーの一員として、本学から江川優斗さんが選ばれました。「対戦相手は、台湾のなかでもトップレベルの大学の選手たち。吸収できる部分がいっぱいあります」。

大学卒業後は実業団でのプレーを希望し、将来的には高校野球の指導者をめざしている江川さん。そんな未来に向けても、今回の遠征はとてつもない経験となるでしょう。「自分の持ち味は打撃ですし、ぜひヒットを打ちたい!」と出発前に話してくれた通り、出場した●試合で計●安打を記録。国際舞台で、確かな自信も手にできました。



## 阪神大学野球連盟

## 創立70周年記念事業の

## 選抜チームで台湾へ



江川 優斗さん  
法学部 法律学科 4年  
和歌山県立箕島高校 出身

## 卓球部

春季リーグ戦で土壇場の粘りを見せ、1部の座を死守!

本学卓球部は2025年度関西学生春季卓球リーグ戦(5月3日〜18日)において、強豪大学がひしめく1部リーグに14季連続(8年)出場しました。初戦で立命館大学を追い詰めたものの惜敗し、そこから連敗が続きましたが、「全力プレー!全力応援」のスローガンの下で佛教大学との激闘を制し、2部への自動降格圏内から脱しました。そして2部から昇格を狙う大阪商業大学との入替戦では挑戦者の気持ちで臨み4対1で勝利し1部リーグへの残留を決めました。



# 研究室への いざない

Welcome to  
the Research Room

Vol.5



研究室の扉を  
開いてみよう

会社の設立や運営、仕組み、組織などについてのルールを定めた法律が「会社法」。この会社法の研究のなかでも、高田准教授が専門とされている「労務出資」というテーマについて、お話をうかがいました。

## 知識や能力を出資し、 対価を得るといふ考え方

会社に出資をする際、多くのケースにおいては金銭による出資が行われますが、時には金銭でなく、動産や不動産による現物出資といったケースも見られます。これらに対して、私が研究テーマとしている「労務出資」とは、その言葉通り「労務による出資」のこと。つまり労働力、もしくは自分の知識・能力・特許などを提供する一方で、会社に出資を行う、という出資形態です。

会社が利益を出せば、出資者はその利益の一部を出資の対価として受け取ることができます。例えば株式会社の場合、出資者は株主となり、配当金などを得ます。ただこれが労務による出資になると、対価の算出

が非常に難しくなります。そのためもあって、日本の会社法では、株式会社への出資は金銭か動産・不動産しか認められておらず、労務出資はできません。しかしフランスなどでは一部、株式会社の形態を取っている会社でも労務出資が認められており、私はこれを非常に興味深く感じ、ずっと研究対象としてきました。

もし日本の株式会社でも労務出資が認められれば、それは新しい働き方の提案にも繋がるのではないかと考えます。従業員としての雇用契約と異なり、会社から指揮命令を受けることなく、自分の能力を発揮すれば良いのです。そして、その働きそのものが会社への「出資」となり、会社が成長すればその対価が得られます。また「お金はないが起業したい」といった人が、自らの能力を出資して

## 新しい働き方の提案や 新しい起業スタイルの創出にも 繋がる「労務出資」とは？

高田尚彦准教授 TAKADA Naohiko

会社を立ち上げることも可能になるかもしれない。そうした新しい選択肢を生み出すことができる、労務出資の有効性について提言していきたいと考え、研究を進めています。

### フランス商法から 新しい提言への糸口を

フランスなど他国での事例から制度としての労務出資は可能だと考えていますが、日本の株式会社で実現するには課題が多いですね。まず労務を金銭での出資に置き換えるといくらになるか、といった評価が難しい。そしてその評価の難しさから、有限責任制度のなかで労務出資の責任範囲をどう定めるか、というのも難問になります。資本金との関係性、会社計算規則や税法に至るまで、多方面に手を広げ、様々な文献を参考にしながら活路を探っています。

私は学生時代からフランス商法の研究に取り組んできました。「なぜフ



### PROFILE

高田尚彦 [法学部 法律学科 准教授]

- ◎学位：博士(法学)
- ◎最終学歴：名古屋経済大学大学院法学研究科
- ◎主な担当科目：商法I、会社法概論、ビジネス法務、商取引法概論、金融と法

関西学院大学法学部卒業後、家業の会社経営に携わるが「学び直しがしたい」と社会人入試を経て大学院へ。博士課程修了後、2018年より教員として中京学院大学経営学部へ。本学には2021年より着任。

ランス商法では株式会社でも労務出資が認められている」という問いに明確な答えは出せませんが、フランス商法には何となく大らかな印象を感じます。「出資はお金じゃないとダメ」なんて制限を加えなくてもいいんじゃないか、というような。歴史や文化の影響もあると思います。そうした観点で、世界の法律を比較するのも面白いですよ。

卒業後は会社に就職する、という方は多いと思います。ならば、やはり会社法についてある程度は学んでおいてほしい。自分が将来勤めることになる「会社」とはどのようなものなのか、会社法から理解を深めることができます。経営学とも密接な関係がありますし、法学部生でなくても、他学部履修で会社法を学んでいる学生も本学には多い。会社法、経営学、簿記・会計など、いろいろな関連づけて学ぶと、きっと将来に生きる知識や考え方が養えますよ。